

営農支援ソフト実演

山形 J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターは、三川町で、営農計画策定支援システム「Z-BFM」の活用推進に向けた実演・相談会を初め

て開いた。システムは経営規模や作物の種類、生産販売量、資材費、労働力などを入力すると作物の組み合わせや面積など、作物ごとに所得が最大となる営農計画を示す。「Z-BFM」はJ A全農と農研機構が共同開発した。

改革ニュース

麦・大豆収量1トッへ

佐賀 佐賀県とJ Aさがなどの農業団体は、「麦・大豆1トッどりプロジェクト」を始動した。気象条件にかかわらず安定して高い収量を確保できる栽培技術

を普及し、先進農家で麦・大豆合わせて10%当たり収量1トッ(小麦650キロ、大豆350キロ)を目指す。県農業試験研究センターで開いた発足会には、県関係機関や県農業団体、J Aの関係者ら90人が参加した。